

子どもの痛みや恐怖を最小限に ～子どもにやさしい医療を提供するために～

北病棟3階

子どもにとっての痛みは、いろいろな要因が関係します。



+



+



→



→子どもの心理的負担を軽くして、痛みを減らすことが必要です。

北病棟3階ではHPS(ホスピタル・プレイ・スペシャリスト)、保育士が介入して心理的負担を軽くする支援を行っています。



①プレパレーション

「心の準備ができるような心理的支援」子どもが見通しをもつことで不安の軽減を図る

- ・嘘をつかずに実際に経験することを中心に伝える
- ・痛みを伴う時は痛みを感じる時間が限られていることを伝える
- ・処置中は泣いてもよいこと、動かないようにすることを伝える
- ・痛みを軽減できる方法があることを伝える(保護者にいてもらう、楽な姿勢など)

②ディストラクション

「気をそらす支援」医療処置に伴う子どもの痛みや不安を和らげるために行う

- ・遊びや音、映像など五感を刺激する方法を用いて注意を別の方向へ向ける

視覚(絵本や動いたり光ったりするおもちゃを見せる、動画を見る)

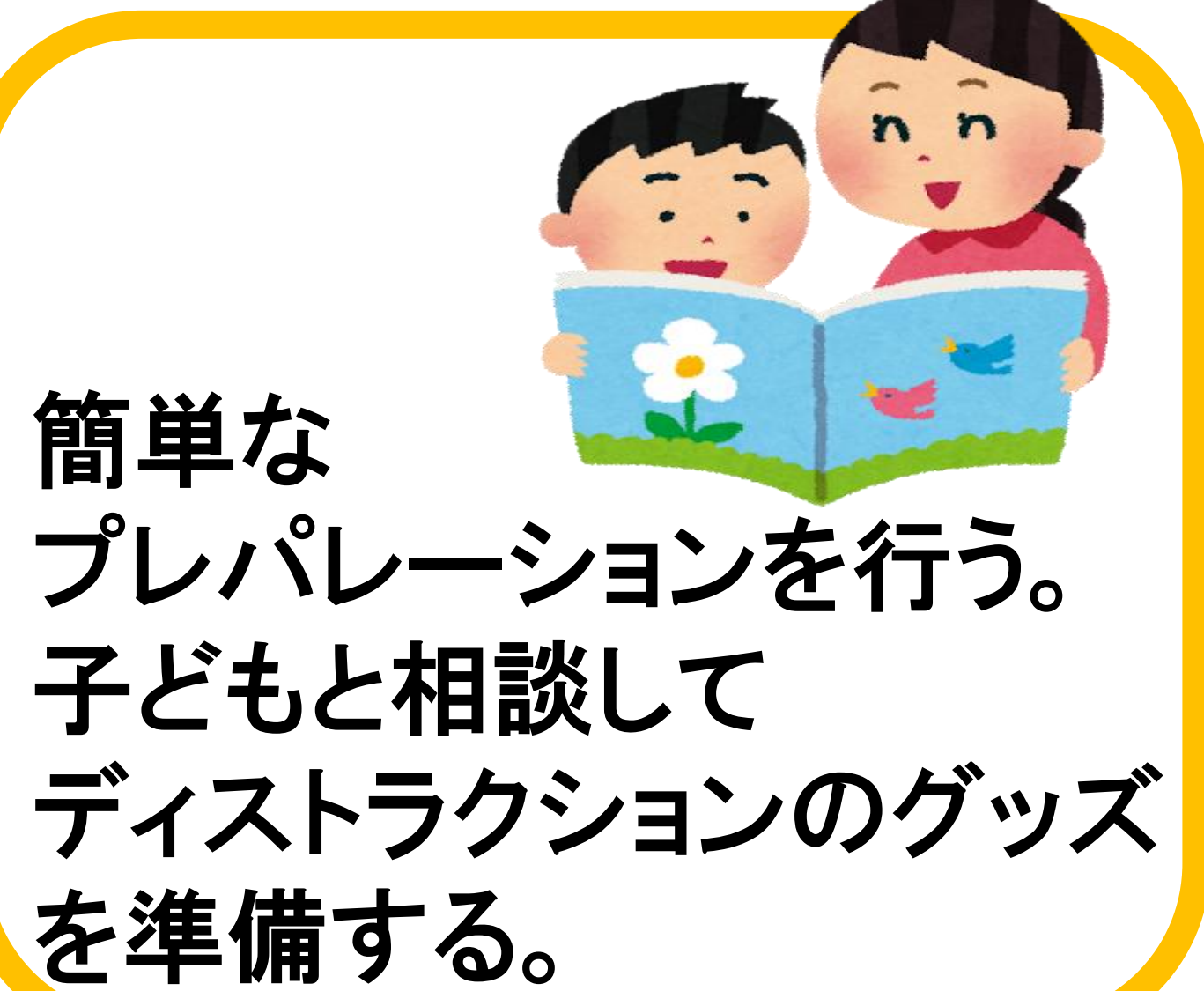
聴覚(音楽をかける、歌を歌う、音が鳴るおもちゃを使う)

触覚(手を握る、体をさする、ゴム製のボールや粘土に触らせる)

嗅覚(アロマセラピー)…など



ディストラクションの実際



今後も医師、看護師、HPS、保育士、保護者と連携して子どもを
中心とした安全・安心な医療を提供していきます

